



Yokohama Arts Foundation

記 者 発 表 資 料

令和 2 年 8 月 1 8 日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリー

—新しい価値観を探る—

新・今日の作家展 2020 再生の空間



山口啓介《歩く方舟の fragment/water line 3》2019年 アクリル、水彩、紙（ボード）

歴史ある「今日の作家展」の理念を受け継ぎ、同時代の表現を幅広い作家の作品を通じて紹介してきた「新・今日の作家展」。本年は〈再生の空間〉をテーマに、身近な場所あるいは世界でおこっている現象に向き合い、未来を志向していく行動と日常への関心を喚起するような制作をおこなう作家2名を紹介します。

個人的な物語をテーマとしたドローイングや小説の制作から発展し、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどを総合的に組み合わせ「新しい種類の文学」を制作する地主麻衣子(1984年生まれ)。歴史上の事柄を多面的にとらえ、版画、絵画、立体、さまざまな手法で自然と人間が共存するイメージの世界を描き続けてきた山口啓介(1962年生まれ)。本展は、ヨコハマトリエンナーレ2020にも呼応し、今日性を反映した表現の紹介を通じ、多層的な世界にアクセスしながら思考の回路をつないでいくことを目指します。

【展覧会概要】

展覧会名：「新・今日の作家展 2020 再生の空間」

会 期：2020年9月22日（火・祝）～10月11日（日）10:00～18:00（入場は17:30まで）

会期中無休、入場無料

会 場：横浜市民ギャラリー（横浜市西区宮崎町26-1）展示室1、B1

出品作家：地主麻衣子、山口啓介

主 催：横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社 共同事業体）

【本展の見どころ】

◆地主麻衣子の「今できること」をテーマとした新作映像インスタレーション

地主はコロナ禍において、「今できること」をテーマに些細で曖昧な事象に着目した新作映像をインスタレーションとして提示します。



◆山口啓介が戦争・災害に向き合い制作した大型絵画、《震災後ノート》

山口は10名の画家による絵画プロジェクト「地球・爆」(※)より、岡本信治郎、伊坂義夫、市川義一の共作を展示。また山口が2011年の東日本大震災直後から書き続けている《震災後ノート》も展示します。



※「地球・爆」は、岡本信治郎を中心に、伊坂義夫、市川義一、大坪美穂、小堀令子、清水洋子、白井美穂、松本旻、山口啓介、王舒野の10名の画家による絵画プロジェクトです。このプロジェクトは、20世紀以降に起こった戦争や災害が、地球とそこに暮らす人類にもたらすものをテーマに、F150号(227.3×181.8cm)を基本サイズとした約150枚の絵画パネルで構成されています。

地主麻衣子《Lip Wrap / Air Hug / Energy Exchange》
2020年 HDビデオ 2分29秒

◆出品作家インタビューや展示作品の紹介など、展覧会の魅力をお届けする動画コンテンツをオンライン配信

◆出品作家と作品にさまざまな角度から光を当て理解を深める、ゲストを招いた対談を開催



山口啓介「地球・爆」第10番より《黒い涙》2012年
アクリル、顔料、キャンバス 227.3×181.8cm
撮影：怡土鉄夫

【関連イベント】

(1) 対談「電気まぶたの世代」

地主麻衣子×中尾拓哉（美術評論家）

9月26日（土）14:00～15:30

会場：4階アトリエ

(2) 対談「二つの、3月11日／震災後とコロナ後の世界」

山口啓介×徐京植[ソ・キョンシク]（作家、東京経済大学教授）

10月3日（土）14:00～15:30

会場：4階アトリエ

※いずれも事前予約制、参加無料

※開催情報と参加方法の詳細は当館ホームページでご確認ください。

※上記の他、ギャラリートークをオンラインで配信する予定です。

※新型コロナウイルス感染拡大状況、その他諸般の事情により、展覧会および関連イベントの内容が変更となる場合があります。

※ぜひ当事業の取材、情報掲載をお願い申し上げます。

取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。

お問い合わせ先 *本日は17:15まで在席しております。

横浜市民ギャラリー 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】

館長 松井美鈴

展覧会担当 大塚真弓

TEL : 045-315-2828